

公聴会における公述意見の要旨と市の考え方

■公述人 1

公述意見の要旨	市の考え方
<p>二俣川駅南口再開発計画に反対します。 東日本大震災が起き、未曾有の被害が出ています。 未だ被災者の救済がなされていないばかりか、原発事故は収まる見通しがありません。電力や物資が被災地に必要な中で、急ぐ必要のない工事です。 平日よく買い物等で利用していますが、現在でも買い物には重大な支障は感じられません。 北口商店街は小売店がどんどん無くなっています。小売店が無くなっていくのはとても寂しいことです。 横浜市は、この事業にかかる多額の補助金を住民が本当に必要としている施設や年をとってからも買い物しやすいまちづくりに使ってほしいです。 長期の工事は不快感を感じるものです。</p>	<p>本市では、平成 16 年に、旭区における都市計画に関する基本的な方針として、横浜市都市計画マスタープラン・旭区プラン「旭区のまちづくり」を区民参加のもとで策定しています。この「旭区のまちづくり」では、「駅周辺のまちづくり方針」として、「駅周辺がにぎわい、くらしが便利で楽しいまち」を目標に掲げています。また、二俣川駅南口については、駅ビル等の老朽化や、駅周辺の高度利用が進まないなどの課題があるとし、鴨居上飯田線の整備にあわせ、駅前広場の整備や商業・業務機能の集積を図るため、再開発を行うこととしています。</p> <p>こうした方針等を踏まえ、二俣川駅南口において、土地の合理的かつ健全な高度利用と都市機能の更新とを図り、もって公共の福祉に寄与するため、都市再開発法による市街地再開発事業の決定等を行うものであり、当該事業に対して、関係法令等に基づいた適切な補助を行う予定です。</p> <p>また、本市では、昨年 12 月に策定した中期 4 か年計画において、鉄道駅を中心としたコンパクトなまちづくり、災害に強いまちづくり等を進めることとしています。二俣川駅南口の市街地再開発事業等により安全で快適な交通広場や歩行者空間、建築物の整備が進み、鉄道・バス等の利便性や、歩行者の安全性、地震や火災等に対する防災性、まちの魅力などが大きく向上するものと考えています。</p> <p>工事計画については、今後、施行予定者が策定しますが、工事の実施にあたっては、事前に地域の皆様等に十分な説明を行い、駅の利用者や地域の皆様などに十分配慮した工事を行うよう、施行予定者に指導していきます。</p>

公聴会における公述意見の要旨と市の考え方

■公述人 2

公述意見の要旨	市の考え方
<p>二俣川南口地区の市街地再開発事業に反対します。再開発準備組合は18地権者だけと聞いています。この組合に対して、国、神奈川県、横浜市が総工費300億円の20%である60億円もの多額の税金を投入することは、税金の使い道として、市民のごく一部である人たちの利益に対する補助であり、問題です。説明会では、公共的なものと言えるのは通路程度ということでしたが、その歩行者通路も5か所のうち幅2メートルが2か所、2.5メートルが1か所となっていて、通路空間とは言えず、駅利用者の安全性を図る趣旨に反します。</p> <p>公共的部分は極めてわずかな範囲であり、補助金の大半が18地権者のための事業施設とマンションのために使われると考えられ、税金の使い道の公平さに反します。</p> <p>未曾有の大災害をもたらした東日本大震災の復興支援や福島原発の被害地域の住民に対して、今後、国が膨大な支出をどのように捻出していくかが最重点課題であり、今、二俣川駅南口再開発に補助金を出す時期ではありません。</p> <p>1円でも多く災害地の復興に向けるべきです。</p> <p>趣旨の一つに「まちづくりの検討」とありますが、横浜市が責任を持って検討するのであれば、高齢者が一番多い旭区において、駅前に集中するのではなく広い範囲を想定し、二俣川駅周辺に限れば、大池公園に至る商店街や北側の試験場やがんセンターに通じる商店街の活性化に重点を置くべきです。</p> <p>段差や混雑する駅前ではなく、高齢者がゆとりを持って身近な所で買い物ができ、高齢者の安否がお店を通じて分かり合えるようなコミュニケーションづくりにこそ行政は意識的に力を入れてまちづくりをしていくべきです。</p> <p>二俣川駅周辺は既に大店舗もあり、これ以上の店舗ができれば現在の商店などは潰れてしまう危険も考えられ、高齢者の買い物難民も危惧されます。</p> <p>横浜市の税金は、広く市民のために有効に使うべきです。</p> <p>土木工事に関しては、壊して高層建物にするのではなく、既存を生かし、改修することで環境を守り、税金の無駄遣いをなくすことを求めます。</p> <p>一部の人たちに利益をもたらす税金の使い道ではなく、住みよいまちづくりを考えるならば、具体的な要望として、二俣川地域にはない地区センターやコミュニティセンターを造ってほしいです。</p> <p>南口、北口の商店街の中に集まりの場があることで、子供たちも含め幅広い層の人たちの流れができ、街の活性化に繋がります。</p> <p>南口の横浜銀行前から駅に通じる階段の半分をエスカレーターにしてほしいです。</p> <p>南口の希望ヶ丘駅行きバス停前の歩道を広くしてほしいです。</p> <p>北側の段差解消として、二俣川小学校側の歩道橋の高さを駅改札口とフラットにし、併せて足の不自由な方などを対象にしたエレベーターを設置してほしいです。</p> <p>南口に限定した再開発には反対します。</p> <p>横浜市は、二俣川駅の南北周辺の幅広い地域の活性化と、急坂で狭い、見通しの悪い道路での事故防止対策など、安心して住みよい二俣川にするための施策に血税を使ってください。</p>	<p>本市では、平成16年に、旭区における都市計画に関する基本的な方針として、横浜市都市計画マスタープラン・旭区プラン「旭区のまちづくり」を区民参加のもとで策定しています。この「旭区のまちづくり」では、「駅周辺のまちづくり方針」として、「駅周辺がにぎわい、くらしが便利で楽しいまち」を目標に掲げています。また、二俣川駅南口については、駅ビル等の老朽化や、駅周辺の高度利用が進まないなどの課題があると、鴨居上飯田線の整備にあわせ、駅前広場の整備や商業・業務機能の集積を図るため、再開発を行うこととしています。</p> <p>こうした方針等を踏まえ、二俣川駅南口において、土地の合理的かつ健全な高度利用と都市機能の更新とを図り、もって公共の福祉に寄与するため、都市再開発法による市街地再開発事業の決定等を行うものであり、当該事業に対して、関係法令等に基づいた適切な補助を行う予定です。</p> <p>また、本市では、昨年12月に策定した中期4か年計画において、鉄道駅を中心としたコンパクトなまちづくり、災害に強いまちづくり等を進めることとしています。二俣川駅南口の市街地再開発事業等により安全で快適な交通広場や歩行者空間、建築物の整備が進み、鉄道・バス等の利便性や、歩行者の安全性、地震や火災等に対する防災性、まちの魅力などが大きく向上するものと考えています。</p> <p>本地区を含めたその周辺地域においても、「旭区のまちづくり」などの方針等を踏まえ、地域の皆様と連携して引き続き良好な環境形成など、まちづくりの推進を図っていきたいと考えています。その際に今回のご意見を参考にさせていただきます。</p> <p>現時点で地区センターやコミュニティセンターの整備予定はありませんが、本市街地再開発事業では、地域のニーズが高い子育て支援施設等の公益施設の導入などが計画されています。</p> <p>今回の都市計画市素案における公共的施設としては、歩行者用通路のほか、交通広場や区画街路を計画しており、これらについては、駅利用者などの歩行者、バスなどの自動車について、それぞれ交通量を推計したうえで適切な幅員や規模等を設定しました。</p> <p>これらの交通広場や区画街路、歩行者用通路などが整備され、併せてエレベーターやエスカレーターが設置されることにより、歩行者の安全性や利便性の向上だけでなく、駅から南口交通広場へのバリアフリー化が実現すると考えています。</p> <p>更に、二俣川駅周辺地区のバリアフリー化については、横浜市バリアフリー検討協議会二俣川駅周辺地区部会が設置され、バリアフリー化のための基本構想を検討しているところです。</p>

公聴会における公述意見の要旨と市の考え方

■公述人3

公述意見の要旨	市の考え方
<p>二俣川駅南口地区の市街地再開発事業に反対します。</p> <p>東日本大災害が起き、未曾有の被害をもたらし、復興もされていないこの時期に、100メートルもの高層ビルの建設、周辺開発することに様々な面で疑問を感じています。</p> <p>ここ関東にも、この25年以内に70%の確率で大震災が起こるのではないかとされています。</p> <p>市が投入する60億円もの多額な補助金は、今、必要としている東北の復興支援に使うべきです。</p> <p>数年前に建てられた鶴ヶ峰の無機質な、日本的良さの感じられないコンクリート建築のビルを見るたびに心が痛みます。</p> <p>環境の面でも、屋上には太陽光パネル、風車、雨水利用、屋上緑化などの配慮が全くなく、道の部分もコンクリートで埋め尽くされ、緑が無く、環境破壊やヒートアイランド現象の原因にもなっています。</p> <p>今まであったビルを壊すことで膨大な廃棄物が排出され、その処理にも多くの資金やエネルギーが必要となり、温暖化防止の妨げになることが危惧されます。</p> <p>投入される資金を、今ある建築物を震災に強いものに修復したり、緑豊かなまちづくりに投入すれば、自ずと人との繋がりも生まれ、お年寄りも住みやすく、次の世代に継承できる安心して住める街になります。</p> <p>今一度再考されることを切に望みます。</p> <p>マンションに取り入れられたらいいなということを述べます。</p> <p>マンションは、ドアの上下を開閉できるようにして風が通るようになればエアコンの使用がすごく減ると思います。</p> <p>網戸を防犯上、安全なものにしたり、鍵がかかるようにすれば、留守のときや夜も開けたままで過ごせ、エアコンの使用量がずっと削減されると思います。</p> <p>ベランダのフェンスの部分をコンクリートでなく、風通しのいいものにして、スペースも広ければ、花や野菜が育てられて、緑も増え、もっと住みやすい住居になると思います。</p> <p>今後、このような高層建築を建設される場合には、配慮してほしいです。</p>	<p>本市では、平成16年に、旭区における都市計画に関する基本的な方針として、横浜市都市計画マスタープラン・旭区プラン「旭区のまちづくり」を区民参加のもとで策定しています。この「旭区のまちづくり」では、「駅周辺のまちづくり方針」として、「駅周辺がにぎわい、くらしが便利で楽しいまち」を目標に掲げています。また、二俣川駅南口については、駅ビル等の老朽化や、駅周辺の高度利用が進まないなどの課題があるとし、鴨居上飯田線の整備にあわせ、駅前広場の整備や商業・業務機能の集積を図るため、再開発を行うこととしています。</p> <p>こうした方針等を踏まえ、二俣川駅南口において、土地の合理的かつ健全な高度利用と都市機能の更新とを図り、もって公共の福祉に寄与するため、都市再開発法による市街地再開発事業の決定等を行うものであり、当該事業に対して、関係法令等に基づいた適切な補助を行う予定です。</p> <p>また、本市では、昨年12月に策定した中期4か年計画において、鉄道駅を中心としたコンパクトなまちづくり、災害に強いまちづくり等を進めることとしています。二俣川駅南口の市街地再開発事業等により安全で快適な交通広場や歩行者空間、建築物の整備が進み、鉄道・バス等の利便性や、歩行者の安全性、地震や火災等に対する防災性、まちの魅力などが大きく向上するものと考えています。</p> <p>中期4か年計画においては、地球温暖化対策の推進についても位置づけており、「CASBEE横浜」（横浜市建築物環境配慮制度）の活用等によるエネルギー効率のよい建築物・設備の普及等を進めることとしています。</p> <p>更に、今回の都市計画市素案では、地区計画により建築物等の形態意匠の制限や建築物の緑化率の最低限度などを定めることで、景観や環境に対して一定の配慮をしています。このため、建築物等における総合的な環境配慮の取組について、施行予定者に働きかけていきます。</p> <p>共同住宅の詳細な計画については都市計画に定めるものではありませんが、御要望の内容を施行予定者に伝えます。</p>

公聴会における公述意見の要旨と市の考え方

■公述人 4

公述意見の要旨	市の考え方
<p>二俣川駅南口地区再開発事業案に対して、三つの観点から反対します。</p> <p>1 番目の問題は、公費 60 億円投入の是非についてです。</p> <p>戦後最大の東日本大震災という自然災害と東京電力福島第一原発事故が発生した今、被災者救援、復興の事業にこそ公費を投入すべきであり、その財政負担のためには、従来、策定された大規模な都市再開発事業計画は全て見直しが必要とされています。国、県及び市から 60 億円もの税金が投入されるという二俣川駅南口地区再開発事業案のような大型開発は、不要不急の観点から、見直されるべきです。</p> <p>今、戦後最大の国難の時に於いて、国民の総意は被災地の復旧、復興のための財政出動であり、財政厳しい折、限られた税金は緊急に被災者支援に回すべきです。</p> <p>2 番目の問題は、建物の耐震性についてです。</p> <p>鶴ヶ峰駅周辺で、既に今回の再開発と同様の高層ビルが建設されましたが、今回の地震において高層階では相当の揺れがあり、居住者にとって安全な住宅ではなかったと聞いています。鶴ヶ峰駅地区と同様の発想で計画している二俣川駅南口地区の再開発計画は、東海地震や首都圏直下型の大地震が近い将来発生すると予想される中で、東日本大震災で記録されたマグニチュード 9 を想定した耐震強度設計になっておらず、耐震性に大きな不安があります。</p> <p>「想定外であった」という言い訳は、命にかかわる大震災が発生してから言わないでください。耐震設計を見直して、建築計画案を再作成すべきです。</p> <p>3 番目の問題は、今回の再開発計画案が魅力あるまちづくりに資するプランとなっているかです。</p> <p>今回の計画での最大のコンセプトは、「二俣川駅南口周辺を拠点にふさわしい交通広場等の公共施設の整備を図るとともに、魅力ある街を形成する」となっています。</p> <p>現在の二俣川駅の周辺の魅力とは何なのかを考えて計画が立案されたのか、甚だ疑問です。</p> <p>駅周辺の商業施設には、既に大型施設と小さな商店とが共存しており、多数の金融機関も立地されており、便利なターミナルです。</p> <p>無論、建物の耐震化や駐輪場の整備等、駅周辺の改善すべき点は多々あります。</p> <p>しかし、大都市に立地する駅周辺を拠点化するために、高層のマンションや大型の商業施設が必要であるとは決して思いません。</p> <p>電車に乗れば、10 分足らずで大商業施設が林立する横浜駅に出かけることができます。二俣川駅をミニ横浜にするのはいかなものかと思えます。鶴ヶ峰再開発ビルのごとく高層ビルが建つことによって、周辺建物とのアンバランスが生じ、かえって景観が損なわれ、アスファルトばかりで夏にはヒートアイランド現象が起こったり、ビル風などの風害が発生して環境破壊に繋がると危惧されます。</p> <p>周辺人口の減少や住民の高齢化が進行している今、若い世代が安心して子育てができるまちづくりが求められているのではないかと思います。</p> <p>子育てにとって、自然環境が豊かであるのは非常に大切です。二俣川駅南口周辺には、大規模で自然豊かな大池自然公園があり、旭区民だけでなく横浜市民全体のオアシスとなっています。「魅力あるまちづくり」と言うのであれば、この自然公園を生かした、二俣川駅を拠点としてのまちづくりがふさわしいと思えます。</p> <p>公園までの緩やかなプロムナードの設置、歩行者道の整備など、自然と共生したまちづくりこそ、子供も高齢者、障害者も安心して暮らしていける街です。</p> <p>自然環境とマッチした駅前の再開発、人にやさしいまちづくりこそが、自然の猛威である大震災を体験した我々日本国民が目指していく方向性です。</p>	<p>本市では、平成 16 年に、旭区における都市計画に関する基本的な方針として、横浜市都市計画マスタープラン・旭区プラン「旭区のまちづくり」を区民参加のもとで策定しています。この「旭区のまちづくり」では、「駅周辺のまちづくり方針」として、「駅周辺がにぎわい、くらしが便利で楽しいまち」を目標に掲げています。また、二俣川駅南口については、駅ビル等の老朽化や、駅周辺の高度利用が進まないなどの課題があると、鴨居上飯田線の整備にあわせ、駅前広場の整備や商業・業務機能の集積を図るため、再開発を行うこととしています。</p> <p>こうした方針等を踏まえ、二俣川駅南口において、土地の合理的かつ健全な高度利用と都市機能の更新とを図り、もって公共の福祉に寄与するため、都市再開発法による市街地再開発事業の決定等を行うものであり、当該事業に対して、関係法令等に基づいた適切な補助を行う予定です。</p> <p>また、本市では、昨年 12 月に策定した中期 4 か年計画において、鉄道駅を中心としたコンパクトなまちづくり、災害に強いまちづくり等を進めることとしています。二俣川駅南口の市街地再開発事業等により安全で快適な交通広場や歩行者空間、建築物の整備が進み、鉄道・バス等の利便性や、歩行者の安全性、地震や火災等に対する防災性、まちの魅力などが大きく向上するものと考えています。</p> <p>今回の都市計画市素案では、地区計画により建築物等の形態意匠の制限や建築物の緑化率の最低限度などを定めることで、景観や環境に対して一定の配慮をしています。具体的な緑化計画等については、今後施行予定者と調整を行っていきます。</p> <p>また、建築物等の設計にあたっては、ヒートアイランドやビル風への対策を含めて、地区内及び周辺の環境に十分配慮するよう、施行予定者に働きかけていきます。</p> <p>建築物等に関する詳細な設計は、事業実施の段階で行われることとなりますが、高さ 60 メートルを超える建築物については、建築基準法に基づき、当該建築物の安全上必要な構造方法に関する技術的基準に適合させ、国土交通大臣の認定を受ける必要があるため、これにより、構造的に一定の安全性を確保した建築物になると考えます。</p> <p>本地区を含めたその周辺地域においても、「旭区のまちづくり」などの方針等を踏まえ、地域の皆様と連携して引き続き良好な環境形成など、まちづくりの推進を図っていききたいと考えています。その際に今回のご意見を参考にさせていただきます。</p>

公聴会における公述意見の要旨と市の考え方

■公述人5

公述意見の要旨	市の考え方
<p>再開発計画に反対します。</p> <p>この開発は巨大開発です。総工費 300 億円、延べ床面積が今のグリーンGREENの 17 倍に及ぶという巨大箱物づくりですが、今でも買い物や交通に重大な支障はないため、不要不急の事業であると言わざるを得ません。</p> <p>4 年程度と見積もられている長期の工事は、住民にとって長期の工事に伴う不快感、完成後の自動車排気ガス汚染、高層建築物による眺望の阻害、巨大なコンクリート空間による圧迫感と殺伐感というデメリットがありますが、それを補償するメリットがありません。</p> <p>駅の北口と合わせて住宅、商店、駐車場等に不足はありません。事務所等にも不足はありません。そういう状況の中でのこの開発は、供給過剰、客の取り合いによる競争と淘汰にならざるを得ない。</p> <p>結局は、弱者である町場の商店の壊滅に終わり、全体としては過剰投資になっていきます。</p> <p>そして自動車社会という、老人と弱者に不便なまちづくりになっていくと言わざるを得ません。</p> <p>この事業の主体は一企業のグループですが、一企業のグループの地域における一人勝ちを公が後押ししていくという性格を帯びている点において問題があります。</p> <p>今の時期に問題があります。</p> <p>東日本大震災が起きました。</p> <p>原発事故の沈黙、被災者の救済、被災地の復興、これに膨大な資金、物資、エネルギーが必要になっており、新聞等によっては復興税、あるいは消費税の増税が取りざたされています。既に多くの国民は義捐金を提供しています。</p> <p>そういう中であって、企業、法人、自治体も含めて、できるだけ資金をそちらに回すべきです。</p> <p>今までどおりに漫然と巨大な箱物を造っていく情勢ではありません。</p> <p>たとえ大震災がなかったとしても、現在の国際的な状況は、地球の温暖化を防止するために化石燃料をどうやって削減していくか、その消費を減らしていくかということが大問題になっており、日本は 2050 年までに 80%以上の化石燃料の削減を達成することが、国際的な責務になっています。</p> <p>そういう状況の中で、従来よりも床面積を 20 倍近くにも増大させることは、その工事、工事の後の維持管理に要するエネルギーもまた床面積にほぼ比例していくと見るのが妥当であり、地球温暖化防止の国際的な責務に反するような大開発を行うべきではありません。</p> <p>そういう状況を鑑みるならば、主な出資者たる一企業のグループは、この建設費を大震災の救済、復興、それから地元の社会貢献として、鉄道、バス運賃の引き下げあるいは地元で要望の強いコミュニティバスの運行等に向けるべきです。</p> <p>国は 30 億円、県、市はそれぞれ 15 億円ずつを補助するということですが、これを今、救済を求めている被災地、横浜に避難してきている方々の支援や失業、低年金、その他の諸々の理由で救済を要する人たち、あるいは子供たちの福祉支援にそのお金を投入すべきです。</p> <p>この会場では、市からこの計画の説明資料が配られています。</p> <p>公述人も同じように、自分の主張が市及び傍聴人にきちんと伝わるよう、最低、公述書の写しやそれにつけ加えるべき資料の配付を認めるべきです。</p> <p>それが憲法に保障された言論、表現の自由であり、そういうことを認めていくことが時代の流れです。</p>	<p>本市では、平成 16 年に、旭区における都市計画に関する基本的な方針として、横浜市都市計画マスタープラン・旭区プラン「旭区のまちづくり」を区民参加のもとで策定しています。この「旭区のまちづくり」では、「駅周辺のまちづくり方針」として、「駅周辺がにぎわい、くらしが便利で楽しいまち」を目標に掲げています。また、二俣川駅南口については、駅ビル等の老朽化や、駅周辺の高度利用が進まないなどの課題があると、鴨居上飯田線の整備にあわせ、駅前広場の整備や商業・業務機能の集積を図るため、再開発を行うこととしています。</p> <p>こうした方針等を踏まえ、二俣川駅南口において、土地の合理的かつ健全な高度利用と都市機能の更新とを図り、もって公共の福祉に寄与するため、都市再開発法による市街地再開発事業の決定等を行うものであり、当該事業に対して、関係法令等に基づいた適切な補助を行う予定です。</p> <p>また、本市では、昨年 12 月に策定した中期 4 年計画において、鉄道駅を中心としたコンパクトなまちづくり、災害に強いまちづくり等を進めることとしています。二俣川駅南口の市街地再開発事業等により安全で快適な交通広場や歩行者空間、建築物の整備が進み、鉄道・バス等の利便性や、歩行者の安全性、地震や火災等に対する防災性、まちの魅力などが大きく向上するものと考えています。</p> <p>今回の都市計画市素案では、地区計画により建築物等の形態意匠の制限や壁面の位置の制限などを定め、景観や圧迫感の軽減に対しても一定の配慮をしています。</p> <p>また、中期 4 年計画においては、地球温暖化対策の推進についても位置づけており、低炭素都市づくりや「CASBEE横浜」（横浜市建築物環境配慮制度）の活用等によるエネルギー効率のよい建築物・設備の普及等を進めることとしています。このため、建築物の省エネルギー対策など総合的な環境配慮の取組について、施行予定者に働きかけていきます。</p> <p>工事計画については、今後、施行予定者が策定しますが、工事の実施にあたっては、事前に地域の皆様等に十分な説明を行い、駅の利用者や地域の皆様などに十分配慮した工事を行うよう、施行予定者に指導していきます。</p> <p>なお、公聴会は、都市計画法に基づき、都市計画の案に住民又は利害関係人の多様な意見を反映させることを目的として、公開の場での意見陳述の機会として開催するものです。</p> <p>御意見のあった、公述人が傍聴者に資料を配付する行為は、公聴会の趣旨とは異なると考えているため、御遠慮いただいています。</p>

公聴会における公述意見の要旨と市の考え方

■公述人6

公述意見の要旨	市の考え方
<p>賛成できかねる立場から、3点の要望と、1点の意見を言います。</p> <p>3月11日の東日本における大地震、大津波は、阪神淡路大地震のマグニチュード7以上をはるかに超えるマグニチュード9を観測しました。</p> <p>今度の開発にあたって、このマグニチュード9をどのような形で耐震設計値に当てているのか、設計にあたっての安全係数を幾つととらえているのか、今回の大地震から想定される数字に基づいた設計の見直しがあるべきです。</p> <p>鶴ヶ峰の南口開発と今回こちらで造ろうとする南口開発のビルは、形も高さもやや似ています。29階のうち7階から8階以上の方々は非常に怖くて、余震が続いて、特に子供とお年寄りが恐怖心で夜眠れない。恐怖心による生活のリズムの狂いから、高層ビルでの大きな地震、振動への対応について真剣に相談されているようです。町内会にもそういうことが出ています。</p> <p>鶴ヶ峰のコロロットビルは今回のマグニチュードから照らして耐震補強をどのようにしなければいけないか、このことも真剣に、心のケアと併せて考えなければいけません。</p> <p>今回、東日本の大地震を目の当たりに体験し、今、全市を挙げて耐震補強工事を急いで見直すことが求められています。</p> <p>特に、想定される東海大地震が例えば横浜の港、東京の港、京浜の港に押し寄せたらどうなるか。東日本の大地震と大津波を見れば十分想定が可能な光景です。</p> <p>その点も当局は真剣に検討をお願いします。</p> <p>現在、二俣川の駅周辺は、交通渋滞を除くと、生活環境、住環境を見ても、取り立てて大きな障害、不便はありません。</p> <p>今、私たちの街に欲しいのは、大災害から命を守り衣食住を確保する、いわゆるライフライン対策が優先順位の1番です。</p> <p>安全で安心の防災と福祉のまちづくり、東日本の大きな災害から得た大変な教訓です。</p> <p>今、必要なものは、鉄道、道路、下水、橋、病院、電気、水道、ガス、消防の耐震対策であり、最優先にお金を使うべきです。</p> <p>また、説明会でも話がありましたが、少子・高齢化が進む中で、これからのまちづくりはいかにあるべきか、多くの方々の知恵と力をお借りして考えることです。立派な建物ができて、職場からこの二俣川、鶴ヶ峰に戻れない、住む所は立派であっても家に帰れないという状況では困ります。</p> <p>南口の再開発計画は、今、急ぐものではありません。</p> <p>東日本の大地震を教訓とし、大自然の巨大なエネルギーを直視して、南口再開発を再検討してください。</p>	<p>本市では、平成16年に、旭区における都市計画に関する基本的な方針として、横浜市都市計画マスタープラン・旭区プラン「旭区のまちづくり」を区民参加のもとで策定しています。この「旭区のまちづくり」では、「駅周辺のまちづくり方針」として、「駅周辺がにぎわい、くらしが便利で楽しいまち」を目標に掲げています。また、二俣川駅南口については、駅ビル等の老朽化や、駅周辺の高度利用が進まないなどの課題があると、鴨居上飯田線の整備にあわせ、駅前広場の整備や商業・業務機能の集積を図るため、再開発を行うこととしています。</p> <p>こうした方針等を踏まえ、二俣川駅南口において、土地の合理的かつ健全な高度利用と都市機能の更新を図り、もって公共の福祉に寄与するため、都市再開発法による市街地再開発事業の決定等を行うものであり、当該事業に対して、関係法令等に基づいた適切な補助を行う予定です。</p> <p>また、本市では、昨年12月に策定した中期4か年計画において、鉄道駅を中心としたコンパクトなまちづくり、災害に強いまちづくり等を進めることとしています。二俣川駅南口の市街地再開発事業等により安全で快適な交通広場や歩行者空間、建築物の整備が進み、鉄道・バス等の利便性や、歩行者の安全性、地震や火災等に対する防災性、まちの魅力などが大きく向上するものと考えています。</p> <p>建築物等に関する詳細な設計は、事業実施の段階で行われることとなりますが、高さ60メートルを超える建築物については、建築基準法に基づき、当該建築物の安全上必要な構造方法に関する技術的基準に適合させ、国土交通大臣の認定を受ける必要があるため、これにより、構造的に一定の安全性を確保した建築物になると考えます。</p>

公 聴 会 に お け る 公 述 意 見 の 要 旨 と 市 の 考 え 方

■公述人 7

公述意見の要旨	市の考え方
<p>第一種市街地再開発事業の決定を、鴨居上飯田線も含めて見直してください。 東日本大震災、原発事故により、この開発のために補助金を支出することを中止するべきです。 本日の配付資料の②から⑦の変更については、現況のままで良いです。現実に建物が建てられた場合に、緑の量の減少になります。 鴨居上飯田線について、車優先社会はもう要りません。 駅利用者の利便性、安全性の確保について、これでは一概に考えられません。</p> <p>(参考) 説明会及び公聴会の当日配付資料 2 今回決定又は変更する都市計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ①第一種市街地再開発事業の決定 ②高度利用地区の変更 ③用途地域の変更 ④高度地区の変更 ⑤防火地域及び準防火地域の変更 ⑥地区計画の決定 ⑦交通広場の変更 	<p>本市では、平成 16 年に、旭区における都市計画に関する基本的な方針として、横浜市都市計画マスタープラン・旭区プラン「旭区のまちづくり」を区民参加のもとで策定しています。この「旭区のまちづくり」では、「駅周辺のまちづくり方針」として、「駅周辺がにぎわい、くらしが便利で楽しいまち」を目標に掲げています。また、二俣川駅南口については、駅ビル等の老朽化や、駅周辺の高度利用が進まないなどの課題があるとし、鴨居上飯田線の整備にあわせ、駅前広場の整備や商業・業務機能の集積を図るため、再開発を行うこととしています。</p> <p>こうした方針等を踏まえ、二俣川駅南口において、土地の合理的かつ健全な高度利用と都市機能の更新とを図り、もって公共の福祉に寄与するため、都市再開発法による市街地再開発事業の決定等を行うものであり、当該事業に対して、関係法令等に基づいた適切な補助を行う予定です。</p> <p>また、本市では、昨年 12 月に策定した中期 4 か年計画において、鉄道駅を中心としたコンパクトなまちづくり、災害に強いまちづくり等を進めることとしています。二俣川駅南口の市街地再開発事業等により安全で快適な交通広場や歩行者空間、建築物の整備が進み、鉄道・バス等の利便性や、歩行者の安全性、地震や火災等に対する防災性、まちの魅力などが大きく向上するものと考えています。</p> <p>今回の都市計画市素案では、地区計画により建築物等の形態意匠の制限や建築物の緑化率の最低限度などを定めることで、景観や環境に対して一定の配慮をしています。具体的な緑化計画等については、今後施行予定者と調整を行っていきます。</p>

公聴会における公述意見の要旨と市の考え方

■公述人 8

公述意見の要旨	市の考え方
<p>二俣川駅南口再開発計画に反対します。</p> <p>今、国を挙げて最優先で取り組むべきは、東日本大震災の復興です。</p> <p>この再開発に要する国、県、市及び出資者たちの資金を全て震災の復興に振り向けるべきです。</p> <p>また、施設をつくり出す資材、燃料、電力のエネルギー、労働力、マンパワー、これらは震災の復興に優先的に振り向けるべきです。</p> <p>二俣川駅の南口を再開発でつくり変えることは、今すぐには必要ありません。現在の駅舎及び周辺環境に何ら不便、不自由を感じていません。</p> <p>地元の商店街が寂れる心配があります。現在でも万騎が原の商店街はシャッター通りになりつつあります。</p> <p>また、左近山団地に二つの商店街がありますが、第一商店街では、ここ 5 年ぐらいの間に四つの店が閉店し、少し前を含めると五つの店が閉店しています。</p> <p>それらの店は現在、四つが別の店になり、一つはまだ店が入っていません。</p> <p>怪我をして、薬を買いに行こうとしても、近所の薬屋が閉店したため、離れた薬屋まで行かなくてはならない。あるいは二俣川駅にある薬局まで来なくてはならない。やはり、団地の中になくなったのは大変不便です。</p> <p>駅が開発されてそちらに全部お店ができると、ますます団地内あるいは通りの商店街が閉まってしまうのではないか、因果関係は難しいとは思いますが、可能性としては考えられるので、そういった商店が寂れることについて危惧しています。</p> <p>過去、長期間の二俣川駅改修工事が行われ、工事が終わってほっとしていますが、また工事が始まれば、バスを降りて駅を利用するときに改札口が遠くなってしまわないかということがとても心配です。これから高齢者が増えていく中で、そういった不便は何ともやれ切れません。</p> <p>それから、横浜行きのホームの 8 両目あたりから上を見ると、竹林が見えます。そういった景観に癒されます。この配られた図を見ると非常にスマートなものにはなりますが、人間は、やはりそういった精神的に癒される部分があって然るべきです。</p> <p>緑が多くてほっとするということがあります。便利だということも確かに必要ですが、人間は便利だけではなく、そういった情緒的なものを踏まえて生活しているので、それらが破壊されていくというのは極めてやり切れません。</p> <p>住民のエゴイスティックなものかもしれませんが、こうした開発については、思い止まってもらいたいということで反対します。</p>	<p>本市では、平成 16 年に、旭区における都市計画に関する基本的な方針として、横浜市都市計画マスタープラン・旭区プラン「旭区のまちづくり」を区民参加のもとで策定しています。この「旭区のまちづくり」では、「駅周辺のまちづくり方針」として、「駅周辺がにぎわい、くらしが便利で楽しいまち」を目標に掲げています。また、二俣川駅南口については、駅ビル等の老朽化や、駅周辺の高度利用が進まないなどの課題があると、鴨居上飯田線の整備にあわせ、駅前広場の整備や商業・業務機能の集積を図るため、再開発を行うこととしています。</p> <p>こうした方針等を踏まえ、二俣川駅南口において、土地の合理的かつ健全な高度利用と都市機能の更新とを図り、もって公共の福祉に寄与するため、都市再開発法による市街地再開発事業の決定等を行うものであり、当該事業に対して、関係法令等に基づいた適切な補助を行う予定です。</p> <p>また、本市では、昨年 12 月に策定した中期 4 か年計画において、鉄道駅を中心としたコンパクトなまちづくり、災害に強いまちづくり等を進めることとしています。二俣川駅南口の市街地再開発事業等により安全で快適な交通広場や歩行者空間、建築物の整備が進み、鉄道・バス等の利便性や、歩行者の安全性、地震や火災等に対する防災性、まちの魅力などが大きく向上するものと考えています。</p> <p>今回の都市計画市素案では、地区計画により建築物等の形態意匠の制限や建築物の緑化率の最低限度などを定めることで、景観や環境に対して一定の配慮をしています。具体的な緑化計画等については、今後施行予定者と調整を行っていきます。</p> <p>工事計画については、今後、施行予定者が策定しますが、工事の実施にあたっては、事前に地域の皆様等に十分な説明を行い、駅の利用者や地域の皆様などに十分配慮した工事を行うよう、施行予定者に指導していきます。</p>